

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4097300059		
法人名	医療法人浮羽外科医院		
事業所名	グループホーム浮羽		
所在地	福岡県うきは市浮羽町東隈上331-1		
自己評価作成日	令和4年2月23日	評価結果確定日	令和4年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

- 1.母体が医療機関であるため、健康管理・栄養管理に関して安心である
- 2.リハビリ体操や、機器を使ったリハビリ（同一法人医療機関の協力による）、うきは市作成「うき8体操」で毎日体操を行ったり、健康増進に努めている
- 3.毎月のお便り新聞の発行により、家族との連絡を密にしている
- 4.畑の管理・収穫・利用で、利用者の楽しみを増やすようにしている
- 5.イベント行事で、利用者の気分転換を図っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム浮羽」は平成30年4月に開設された2ユニットからなるグループホームである。事業所周辺は自然に恵まれ、季節の花が咲き誇る。母体法人は医療機関であり健康管理、栄養管理に関して安心である。理学療法士による体操指導、股関節の拘縮予防、平行棒を使用した運動、電動サイクルマシンなどによるリハビリなどに力を入れ、又浮羽市作成の「うき8体操」を職員と一緒に毎日行い、健康増進に努めている。以前は事業所で行われた「夏まつり」に利用者家族、地域の方が参加された。コロナ禍の中思うような催事、外出はできないが、近隣の季節の花を愛でたり、ドライブで車内からお花見を行った。毎月の「グループホーム浮羽便り」の発行により、家族との連絡を密にしている。感染防止には、職員は事業所入り口で消毒、検温、手洗いを励行している。今後も地域への貢献が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「事業所の理念」は玄関・事務室・各ユニットに掲示しており、毎月発行している「浮羽便り」にも掲載し、日頃よりその共有と実践に心掛けている。	理念は開設時に理事長が作成した。玄関、事務所、各ユニット、休憩室、出勤時に手洗いをを行う際に上に貼ってあり、目にする事で意識を深めている。毎月発行している「浮羽便り」にも掲載している。月1回行っていた職員会議は、コロナ禍の中、3か月に1回行っている。折に触れ理念についての話し合いは行っており、職員間で共有し実践につなげている。	折に触れ理念について話し合いの場を設け、職員間で共有しているとの事、今後、基本理念を基に、職員各自が行動目標などを定めてみてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症流行により、地域の行事も皆中止となり、地域との交流はほとんど図れなかった。 例年は、10月の秋祭りや11月の地域文化祭に参加。「夏祭り」の開催などで地域との交流を図っている。	区の秋祭りに利用者数名で参加した。公民館の文化祭に「ちぎり絵」「書道」を出展し、事業所の畑でとれたサツマイモのおやつを持参した。事業所で行われた「夏祭り」の案内状はポストイン及び、地区の回覧板に乗せてもらった。社会福祉協議会の依頼で、「施設見学」「認知症の方への接し方」などの勉強会を開催した。コロナ禍の中、地域との交流はほとんど図れていないが、町内会に入会しており、区長が広報誌を届けてくれる。今後でもできる範囲で地域との交流を図っていこうと思っている。	例年はボランティアの訪問もあり、公民館との交流も盛んで、事業所自身が地域の一人として日常的に交流していたが、コロナ禍の中、思うような活動は行えていない。いずれ地域の文化祭に出展できるよう、作品の制作活動は継続しているとのこと。活動の準備をされるとともに、今後中学生の職場体験なども考えられてみたらどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一昨年は、社会福祉協議会からの依頼により、会員様への施設見学と、「認知症の方への接し方」との勉強会を開催したが、今年は昨年同様、感染防止のため行わず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年運営会議では、利用者・家族(両ユニット)・区長・民生委員・ボランティア会会長・包括・市役所職員に出席していただいている。今年も感染防止のため、電話や文書での報告を行った。	運営推進会議には利用者、家族(各ユニットから一人づつ)、区長、民生委員、ボランティア会の会長、包括、市役所職員などの出席があったが、コロナ禍の中、開催は行っていない。運営推進会議の議事録を送付し、事業所の状況、取り組みなどについて報告を行い意見をいただいている。	利用者家族に「浮羽便り」などを郵送するときに、運営推進会議の議事録も同封し、事業所の取り組み、状況などについて報告されてみたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	例年、運営会議の中で実情を伝えたり、場合によっては電話にて相談したり、協力関係を築けている。	運営推進会議の議事録は市町村に郵送している。コロナ感染症について、面会室増設及び補助金の事などの相談に乗ってもらった。介護保険の更新申請は市町村に届けに行く。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	作成したマニュアルに基づき、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「身体拘束にあたる行為とは…」など内部勉強会を行ったり、外部研修に参加したりして、その実践に取り組んでいる。	「虐待防止、身体拘束等の排除マニュアル」に基づき、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。、管理者、計画作成者が外部研修に行き、内部研修に落としている。センサー使用に関しては家族に説明をしている。	

R4.3自己・外部評価表(グループホーム浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	医師を講師に内部勉強会を行うと共に、職員が外部研修会に参加し、その復命・伝達講習を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を講師とし、勉強会を行うとともに、パンフレットを活用し支援できるようにしている。	制度を利用している方はいない。管理者や社会福祉士の資格を所持している職員が成年後見制度の内部研修を行った。パンフレットも用意している。常勤職員は制度を概ね理解している。利用者、利用者家族が制度利用を希望している時は、市役所などに相談する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	例年は相談室にて十分説明を行い、入居者や家族に不安がないよう、理解いただけるまで丁寧に説明している。現在はコロナ禍の為、病院の相談室を使用し、説明や契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年、運営推進会議には、利用者・家族に参加いただき、ご意見を伺っている。現在コロナ禍にて、電話にて意見や要望を伺うようにしている。	コロナ禍の中、訪問はガラス越しで携帯電話を使用し、土、日曜日に10分程度行っている。訪問の際又は電話にて意見、要望を聞き取っている。毎月の「浮羽便り」にて写真も交え、近況報告を行っており利用者家族からも、大変喜ばれている。「意見箱」も設置している。	「浮羽便り」及び電話での確認にも気持ちよく対応してもらい本人の様子がよくわかり、安心しているとの喜びの言葉がある。意見箱には何も入っていないとの事。「浮羽便り」と一緒に一筆便などを入れ、より多くの意見をいただくようにしたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を開催し、意見交換や情報共有を図るようにしているが、今年は感染防止の観点から、職員会議は少なくし、文書の回覧に努めた。	現在コロナ禍の中、職員会議は三か月に1回パート職員も参加し全参加で行い、意見交換、情報共有を図っている。提案などには必要に応じてすぐに対応してくれる(サイクルマシンのベルトなど)。管理者への相談もでき、話やす環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の状況の把握に努め、給与への反映につなげると共に、個別に面談(会話)することで職場環境整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては人権の尊重に配慮している。高齢者でも労働意欲のある方は積極的に採用している。個々の社会参加や自己実現ができるよう、勤務希望に従って勤務表を組んでいる。	30歳代から70歳代と年齢は幅広く、お互いに学びあっている。職員は工作、歌、踊りなどレクリエーションが得意であり、利用者と一緒に楽しみながら行ない、生き生きと勤務している。個々の社会参加や自己実現ができるよう、勤務希望に沿って勤務表を組んでもらう。ハンドマッサージ、ケマネジャーなどに挑戦したいとの希望もあり自己研鑽に励んでいる。	

R4.3自己・外部評価表(グループホーム浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重するよう、勉強会や職員会議などで周知徹底を行っている。	人権研修は理事長が行っている。入居者の人権を尊重するよう、勉強会や職員会議などで周知徹底をしている。本人が電話をしたいと希望する時は電話をかけて安心してもらったり、年賀状やお便りを書いてもらう。本人の好みに合った余暇活動を行っている。	社協、包括などから人権DVDなどをかり、研修などをされてみたらどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県・浮羽医師会・うきは介護ブロック協議会主催の研修会に、積極的に参加するよう推奨している。今年は研修会もほとんど開催されなかった。よって職員会議時に内部研修を行ったり、書類を回覧したりした。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム部会やブロック協議会の研修や懇親会に参加し情報共有や連携に繋がるようにしているが、今年は感染防止の観点から、全て中止となった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早く新しい環境に馴染めるよう、本人様への声掛けを優しく積極的に行うよう、その関係づくりに努めている。ユマニチュートの活用を行い、不安感を失くすため、接するケア・触れるケアを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍で面会もできない中だが、本人から、喜んで過ごして頂けていることを聞き取り、本人の活気ある行動や日常生活動作についてお便りにて報告させていただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族からの聞き取りを基に「今一番望まれていること」を見極め、まずは暫定的プランを立て、サービス内容に取り入れている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活だからできるような家事活動を主体とし、集団活動もゲストの方と一緒に楽しんで過ごし、共に暮らす家族のような関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年はコロナ禍で面会中止のため、毎月の新聞で活動内容の報告、個々にはお便りにて近況報告を行っている。		

R4.3自己・外部評価表(グループホーム浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年もコロナ禍で面会ができていないため、なるべく電話などで連絡を取っていただくよう努めた。	コロナ禍の中ではあるが、家族の訪問は10日間に5人ほどあった。携帯電話、テレビ電話で話をしたり、家族が遠方の方も携帯電話で話をした。近隣の福祉員が箱ティッシュを持参してくれたり、令和4年からは二か月に1回訪問理美容が見えている。趣味の継続もされており、編み物をしたり、レクリエーションで料理好きな方が餃子作りを行った。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団活動と一緒にすることで協調性を高めることに努めている。談話などでも、全員に話しかけ孤立させないように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所された利用者・家族に対しては、電話で経過を尋ねたり、面会に訪問したり、今後についての相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと直接話す時間を設け、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に尋ねたり、表情などから意向を捉えるようにしている。	入居の申込みがあった時は管理者、計画作成者が自宅、病院、施設等を訪問する。利用者及び家族から生活歴、馴染みの暮らし方、要望、不安な事等を聞き取る。意思を伝えることが難しい方には表情、仕草等で思いをくみ取るようにしている。把握した情報は職員全員で共有し、一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子を、ケアマネージャーや介護事業所・医療機関などから情報提供いただき、その把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りを徹底したり、業務日誌やケア記録を見やすいように作成し、情報共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やユニット会議にて、多職種にも聞き職員個々が知り得る情報(家族面会時の状況や特変状況等)を共有し、介護計画やモニタリングに反映させている。達成できたか否かで、項目の見直しを行っている。	職員会議、ユニット会議にて情報を共有し、課題を見つけ出し、話し合う。実施記録とプランは紐づいており、変化を見逃さず、目標の達成状況などモニタリングを行う。担当者会議では本人、家族の要望を聞き、多職種からも意見をもらい、それぞれの意見、アイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	

R4.3自己・外部評価表(グループホーム浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録簿をわかりやすい様式に作成し直し、日々の様子やケアの状況など記録し、実践に活かせるよう図っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一昨年は、連携医療機関(同一法人)に依頼して、リハビリ体操や個別リハビリの指導などに来所してもらっていたが今年もコロナ禍のため、電話などでアドバイスをもらっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍のため、地域との関りは出来ていないが、いずれ地域文化祭に出展できるよう、作品の制作活動は継続している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が近くにあるので、異常があればすぐに診察や往診をしてもらっている。専門医の受診が必要な際は、家族に連絡をし、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医を利用している方が2名。提携医は母体法人のクリニックであり24時間対応ができる。看護師も従事しており変化があればすぐに相談できる。定期受診は家族が対応している。精神科、眼科などの他科受診は、適切な医療を受けられるよう支援をしている。他科受診時は記録し職員全員で共有する。訪問歯科は必要な時に往診してもらう。	運営母体である有床クリニックの院長が理事長であり、相談しやすく、入所者のことをよく見てくださるとの感謝の言葉がある。安心してゆったり穏やかに生活されていることがうかがわれる。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフには看護師も従事しているため、変化があればすぐに相談でき、適切な受診や看護に繋がられている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人が開設しているグループホームであるため、他の医療機関との連携は十分できており、各医療機関のSWとの関係づくりも構築できている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、「重度化対応に関する指針」や「看取りに関する指針」についてご家族に十分説明し同意いただいている。	今まで1名様の看取りを行った。入所時に「重度化対応に関する指針」「看取りに関する指針」について家族に十分説明し同意をもらっている。医師が看取りの必要性があると判断した場合、管理者、職員を交え利用者又は家族へ説明を行う。職員にはより良いケアを行うため「ターミナルケア実践に係る知識と理解」「緩和ケア・精神的ケア」「家族支援」など10項目余りの研修を年1~2回行っている。	

R4.3自己・外部評価表(グループホーム浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息・心肺蘇生術・AEDの使用方法について医師より指導を受けており、急変時や事故発生時のマニュアルもあるが、実践力については個人差がある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年もコロナ禍で、地域や消防署との共同訓練は行っていないが、独自に訓練を行い、非常時に備えるとともに、非常食の備蓄についても適切に行っている。	以前は2~3人の近隣住人の参加があった。コロナが落ち着いた時に、消防署職員が参加してくれた。現在地域、消防署との共同訓練は行っていないが、独自に訓練は行っている。災害などの緊急事態における介護施設・事業所における業務継続計画(BCP)作成は行っている。避難場所はクリニックの2階、中学校などである。備蓄についても適切に行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室に入室する際は、可能な限り本人の了承を得てからにしている。利用者を苗字で呼ぶようにし、年上の方として敬う声掛けをするよう心掛けている。	部屋に掃除などで職員が入室する際は、言葉をかけ入るようにしている。利用者を呼ぶときは苗字で呼ぶようにし、年上の方として敬う声かけを、するようになっている。入居時に写真の同意書はもらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが先に動くのではなく、まず本人に聞くようにしている。意思決定が難しい場合でも、本人の気持ちを考え、決定させていただいている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場なので、集団レクをし利用者間の交流機会を作っているが、午後は、昼寝や塗り絵・編み物など、本人の希望を聞きながら個人レクを取り入れている。気乗りしない時は無理強いしないようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や手鏡の持ち込みも可能。自分でお化粧される方もいる。必要に応じて美容師に来てもらいカットしてもらっている。例年は、家族に相談して馴染みのある美容室に連れてもらったりしていた。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の体調や表情を見つつ、盛り付けや食器洗い、テーブル拭きなどをしてもらっている。食事は職員もいっしょに食べている。	食事レクでは利用者と一緒に「たこ焼き」を作ったり、蒸しパンに粒チョコレートでアフロヘアをデコレーションしたりと楽しんだ。栄養士が献立を立てており、菜園のイチゴ、ブロッコリー、ジャガイモ、キャベツ、トマトなどを職員と一緒に収穫し、食事に添えている。食器洗い、テーブル拭きなどもできる時は行ってもらい、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	

R4.3自己・外部評価表(グループホーム浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委託業者先の管理栄養士が栄養バランスや摂取カロリーを考え献立を作っている。記録に食事・水分摂取量を記入し、状況に応じ職員間で改善策を話し合えるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯装着者は毎食後外して自分で磨いていただいている。必ず職員が確認し、不十分な際は手伝うようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を把握し、トイレの声掛け誘導を行っている。職員が利用者の排泄パターンを理解して、失敗が少なくなるように取り組んでいる。	利用者の半数が布パンツにパッドであり、利用者の排泄状況を把握し、今の状態が維持できるように配慮している。申し送りなどで排泄パターンは職員全員で把握し、さりげない声かけで排泄を促している。リハビリパンツから布パンツとパッドに変更できた方がいる。自然な排便ができるように、午前中は体操、水分補給をしたり、入浴時に腹部マッサージを行う。習慣を活かし、トイレでの排泄及び排泄の自立に向け支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるよう、水分補給や散歩や体操などに取り組んでいるが、どうしても便秘が常態化している利用者には主治医と相談し緩下剤で調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日(曜日)は決めてはいるが、本人の希望や便汚染があった方など、状況に応じて変更できるようにしている。	週2~3回、午前中3~4人入浴する。入浴拒否があるときは、時間を置き声かけをする。看護師が数人おり、皮膚観察を行っている。入浴時間は大事なコミュニケーションの場所とし、入浴を楽しめるようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に十分な睡眠が取れるよう、昼間の過ごし方を考えたり、昼寝時間を調整したりしている。午前中は体操など体を動かすレクリエーションを、午後は週間活動表でメニューを変えて活動的に過ごしてもらうようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用薬棚に薬事情報・おくすり手帳があり確認できるようにしている。新しい薬が処方された際は記録と口頭での伝達を徹底している。 また、与薬チェック表を使って、服薬支援を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みに合った余暇活動を提供できるよう、個別レクを取り入れたたり、家事などのお手伝いをお願いしたりしている。		

R4.3自己・外部評価表(グループホーム浮羽)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は、外出しやすい時期には、ドライブ(花見・紅葉見学)や散歩に出かけている。普段行けない所への外出は、行事として企画計画し、十分検討して実施している。今年もコロナ禍にて、家族との外出は制限させて頂いている。	一昨年は正月に三社祭り、寺の檀並木の紅葉を見にドライブした。普段行けないような所への外出は、行事として企画計画し実施している。コロナ禍の中、外出は制限されているが、裏の畑など近隣を散策している。歩行器、車いすなどを使用する方もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を大事にしている(お金を持っていないと落ち着かない)方へは、所持いただいている。高額の場合は一部預かることもある。コロナ禍で、買い物外出はしていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したいと希望されるときは、電話をかけて安心していただくよう支援している。年賀状やお便りなど、書いていただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光、室温、乾燥には配慮している。季節感を感じていただけるよう、利用者本人が作った工作や塗り絵を壁に貼っている。利用者が不快や混乱を招かないよう、スタッフの動きや音にも気を付け、安心できる環境づくりに努めている。	採光、室温、乾燥には配慮している。天窓がありルーバーになり明るい日差しが室内に降り注いでいる。リビングにはソファが置かれくつろげる空間になっている。昨年は市から生花が届けられ、利用者がユニットに生け花をした。壁には利用者が作った季節の工作や塗り絵が飾られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションで活動的な時間もあれば、テレビ・DVD鑑賞などのゆっくりとした時間も作っている。ソファの座席も考えて決め、仲良く過ごして頂けるよう努めている。トラブルを未然に防ぐ為に席替えをすることもある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごせるよう、入居時には使い慣れた物の持ち込みを推奨している。使い慣れたソファやテーブルを置いたり、以前は、仏壇や配偶者の遺影を置かれたりされていた方もおられた。過ごしやすい居室になるよう工夫している。	クローゼット、三段ボックス、整理ダンスなど使い慣れた家具を持ち込んだり、書を飾ったり、家族の写真、観葉植物を置いたり自分なりの居心地の良い空間を作っている。ドアに可愛いミッキーマウスを飾っている方もいる。	
57		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、一人ひとりができることを把握し、過度な介助はせず、多少の時間がかかるとしても本人を温かく見守り、生活のお手伝いをさせていただいている。なるべく自分でできることは自分でしていただくよう心掛けている。		